

2023年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

- Q: 欧州の建築用ガラス事業で需要減少が見られたということであったが、どの程度需要が減少したか？第4四半期もこの傾向は続くと見ているか？
- A: 当第3四半期においては前年同期比で約10%、販売数量の減少が見られました。一方でエネルギー価格や需給を反映して販売価格は改善しているため、需要減少分をカバーできています。この傾向は第4四半期も続くと見えています。
- Q: 建築用ガラス事業において日本以外のアジア地域で競合激化により販売数量減少・販売価格低下が見られたとのことだが、その要因を教えてください。また、影響が特に大きい地域はあるか？
- A: 影響を顕著に受けた地域はベトナムです。中国からアジア地域へ低価格でガラスが流入し始めたため販売数量が減少し、販売価格も低下しました。
- Q: 当第3四半期3か月の営業差異分析によると販売価格が210億円改善しているが、自動車用ガラス事業による改善はどの程度か？
- A: 自動車用ガラス事業での販売価格の改善は、価格改善交渉の遡及分も合わせるとグループ全体における改善の約4分の1程度です。
- Q: 今まで利益率が高かった高機能ガラス事業での利益率が低下しているが、主な要因は何か？
- A: 事業全般的にコロナ禍からの回復需要の恩恵を受けていたがそれが無くなってきたことや、またメタシャインなどの回復が遅れていることが要因です。さらに、原燃材料費高騰やその他コスト上昇の影響も大きくなってきています。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスについて、主要な顧客が米州での生産能力増強を掲げているが、想定される対応としては新規でフロート窯を建設するのでは無く既存フロート窯の転換になるか？
- A: 基本的には既存の設備を転換するなどし、投資効果が大きくなるよう対応していくことが想定されます。
- Q: 今回通期営業利益予想を100億円上方修正し280億円としているものの、第3四半期累計での営業利益が約240億円であったことを考慮すると第4四半期の営業利益は保守的に見える。この背景は？
- A: 主に世界的なインフレ拡大や金利上昇に伴う景気後退など、事業の不透明さを織り込んだものです。既に欧州建築用ガラスでは需要減少の兆しが見えており、高機能ガラス事業においても景気減速の影響が出始めていると見えます。
- Q: 現時点でフリー・キャッシュ・フローはマイナスとなっているが、通期での黒字化を達成できる見込みは？どのように達成するか？
- A: 運転資本の現金化に注力し、それによりフリー・キャッシュ・フローの通期黒字化およびRP24の財務目標である100億円以上を目指します。